



はこべら

「優しい」はかっこいい



「東っ子の心を見つめる教育週間」初日の校長講話では、「ドラえもん」のジャイアンのお話をしました。

ジャイアンはのび太君との喧嘩のとき決まって「のび太のくせに！」と言います。

しかし、もともとの

映画ドラえもんのはじめの台本では、「ばかやろう。のび太なんか死んでしまえ。」というセリフだったそうです。でも、このジャイアンの声を担当していた声優さんが、「こんなきたない言葉を、映画に見に来る子供たちの前で言いたくない。見に来た子供たちがまねをして使って、心が傷ついてしまふ。」と思いつき、やっと思いついたのが「のび太のくせに！」というセリフなのだそう。のび太のくせに「も相手を傷つける、思いやりのない言葉だと思えますが、「死んでしまえ」という言葉だけは、使いたくなかった声優さんの気持ちがよくわかります。

子供たちに「死ぬ」という言葉を軽々しく使ってほしくありません。わたしは東小の子供たちに、人を傷つけて笑っている人になってほしくありません。意地悪をして人を傷つけている人は、相手だけでなく、自分も傷つけています。自分のことだけでなく、周りの友達のことを考えられる思いやりのある優しい人になってほしいと願っています。

「強い」はかっこいい。でも、「優しい」はもっともっとかっこいい。人のことも、自分のことも、人の命も、自分の命も大切にできる東っ子であってください。

授業参観・懇談会への参加、ありがとうございました。子供たちも緊張感をもって、「命」「平和」「未来」等について考えを深めることができました。しかし、少し残念だったのは、学級懇談会への参加が少なかったことです。学級懇談会は、保護者の皆様が横のつながりをもつことができ、貴重な機会だと考えます。保護者さん同士がつながることは、子供たちの関係にも良い影響を与えます。次の機会には、ぜひ懇談会までご参加ください。

「ココねっこ運動強調月間」



七月一日～三十一日は、全国で「青少年の非行・被害防止全国強調月間」となっており、これを受け、長崎県はこの期間を「ココねっこ運動強調月間」に位置付け、青少年の健全育成、環境浄化に取り組むこととしていきます。

本県では、犯罪少年の検挙状況は年々減少しているものの、少年犯罪の低年齢化が問題になっているほか、スマートフォンやSNSをはじめとする機器やサービスの普及に伴い、SNSを起因とする児童生徒被害が近年増加傾向にあるそうです。また、ネットゲームに過度に依存する「ゲーム障害」も大きな問題となっています。スマートフォン、タブレット、ゲーム機の使用状況は、確実に増えてきています。これらの危険について、大人が無知であった

り、無関心であったりすると、気付かないうちに、子供たちは取り返しがつかない所まで行ってしまふ危険性があります。大人には、未熟な子供たちを守る責任があります。家庭、地域、学校が、大切な子供たちから目を離すことなく、しっかりと見守っていきましょう。

このような現状を踏まえ、長崎っ子のためのメディア環境協議会では、「ネット・電子メディア利用ながさき基準・夜の時まで」を設けています。ぜひ、趣旨をご理解いただき、この機会に、ご家庭で子供たちとメディア（ゲームを含む）利用について家庭内のルールを設定し、徹底をお願いします。

県学力調査の結果

四月に実施された「県学力調査」の結果について、お知らせします。

「県学力調査」は五年生の「国語」「算数」、六年生の「理科」が対象です。東小は全ての教科で、県平均を大きく上回りました。「知識・技能」だけでなく「思考・判断・表現」についても正答率が高く、基礎基本だけでなく活用する力も付いていることがうかがえます。また、「無答率」が低いことも特徴で、粘り強く問題に取り組んでいることがわかります。

さらに細かく見ていくと、昨年度課題としていた「図形領域」に改善が見られた半面、国語科において、今年度も「自分の考えを整理して書く」ことについて課題が残りました。全職員で課題を共有し、当該学年だけでなく、他の学年でも、「要約や自分の考えを書く、メモする、理由を書き込む」などの活動を意識的に仕組み、改善に当たれることを共通理解しました。

特別支援教育だより

めぼえ

～特別支援教育が特別ではなくなる日を目指して～

令和6年6月28日
時津町立時津東小学校
特別支援教育コーディネーター
文責 若杉 聡
第2号

構造化って何？

「構造化」なるキーワードをご存じでしょうか。簡単に言い換えればルーティン化してしまうということです。例えば、今年度の1年生も、4月当初は朝の片付けや準備に時間がかかっていました。6年生のお手伝いを受ける子も多くいましたが（**6年生、ありがとう!**）、日が進むにつれ、かかる時間が短く、手伝いも不要になっていきました。これは決まった行動を毎日して、慣れていったことで、ルーティン化したのだと思います。この「構造化」色々な場面で応用が利くと思います。学校では授業の流れを構造化する（教科によつての違いはあります）、掃除の仕方を構造化するなどです。毎回変えていたのでは混乱したり、違うことに気が散ってしまったりするので決まった流れがよいものには有効です。これを家庭での場面で置き換えると、帰ってからの行動を構造化する「手洗い→おやつ→宿題（順番も構造化）→テレビ又は外遊び」などです。朝の場面も構造化しておくで「早く食べなさい!」「歯磨いた?」

「名札付けた?」と一つ一つ小言を言うことが減り、子どもだけでなく大人も助かるのではないのでしょうか。また、具合が悪いなどで学校を休む時も「熱を計る→病院に行く、もしくはふとんで休む→ゲームなどデジタル機器は元気になるまではお預け」と決めておけばよいかもしれません。慣れないうちは、紙に書いて目立つ所に貼り、子どもも大人も忘れないようにするのもいいですね。



特別支援NEWS やってみました特別支援!

今回は男子三兄弟の一人、今年〇年生になる息子の話です（本人の気持ちを少しは考慮しました）。こちらの息子、整理整頓、物の管理が苦手なようです。毎朝ではないのですが「帽子どこ?」「水筒は?」「名札がない!」ということがちょくちょくありました。前日の記憶を辿らせるも見つかりません。探してあげると、ベッドの上にあったり、テーブルの上にあたり…。もう〇年生なので、自分で何とかできないかと作戦を考えました。

作戦①帰ってからの行動をルーティン化する。決まった行動ならば負担感も減ります。

作戦②ルーティン化したものを忘れないよう合言葉にする。今回は、**㊦**うし、**㊤**いとう、**㊮**ふだ、なので「**(俺) ボスな!**」にしました。

この作戦にしてから今のところは探し物をすることはありません。（よかったよかった^^）**が!**ある日の日曜日、別の息子が出かける直前になって「今日試合で使うゼッケンがない!」とのこと…（はあ〜?!）

To be continued…